

推しという存在

城北中学校 三年 金子 音和

私はいわゆるオタクで、アニメや声優、アイドルなどの様々なジャンルが大好きです。そして推しがなにより大好きで大切です。

少し昔オタクという気持ち悪いなどとあまりよいイメージではなかったと思います。けれど、今はアニメやゲームがより身近なものになり、昔よりも悪いイメージは少なくなったのではないかと思います。けれど、中にはそういったイメージをもっている人もいると思います。なぜそう思うのかというと、私も過去に言われた経験があるからです。

私はある日、「痛バ」という推しのグッズを大量につけたバッグを持ち、出かけたことがありました。その出かけた先ですれ違いざまに「うわ、引く。」と聞こえました。もちろん浮くことは覚悟の上でしたが、言葉にして聞くとても泣きそうになりました。他にも、「そんなに買っても意味ない。」のようなことを言われることは多々ありました。そんな中で特に好きな作品や推しのことを「おもしろくない。」や「かつこよくない。」などと言われるのが特に傷つきました。だって、私からしてみればその作品はとてもおもしろくて、どの人もキャラクターもかつこよくて大好きだから。人の価値観は全く違うので仕方ないといえはそうかもしれないけれど、やはり自分の好きを否定され、なにより大好きな人が悪く言われているようでとても嫌でした。それから、私は堂々と好きを主張するのが怖くなりました。こいつた「とを言われると推し活というものがあまりいいものじゃないように思えてきそうですが、そんなことはないと思うのです。たしかにグッズの買いすぎや課金などのやりすぎはよくありません。けれど推しは私に様々な良いことをくれました。例えば、嫌なことがあり落ち込んでいても、推しをみると元気がでて、がんばろうと思えます。そして推しを通じて大事な友達もできました。また、あまり好きではなかった本が、今では大好きになったり、今まで知らなかった音楽に出会えたりもしました。推しを通じて「夢」も見つけられました。なによりも、推しと出会ってからよりいっそう日々が楽しくなりました。推しは私にとっても多くの「大事なもの」をくれました。きっと同じように推しに救われた人はたくさんいると思います。

今まで、誰かの好きを否定してしまった人もまた、自分の好きなことがあったかもしれない。その人は、もしも自分の好きを否定されたらどう思うでしょうか。おそらく、否定されてよろこぶ人はいないと思います。くり返しになりますが、人はそれぞれ価値観が違います。なので、全員が私の気持ちを理解する必要もないですし、無理に理解してほしいわけ

はありません。けれど価値観が違うからと何を言ってもいいわけではありません。たとえ気持ち悪いと思っても、それを言葉にしているわけではありません。人気作品名探偵コナンでもこんなセリフがあり、「言葉は刃物。」「相手の心を察して慎重に使わねばなりません。たとえそれがどんな相手であらうとね。」「というように、思ったことをそのまま言うだけではだめなのです。なにより自分の好きなことやもの、人を否定されたり、悪くいわれたりするのはいやです。

自分の好きなことなどは誰かと比べたり、差別をしたり、悪口を言ったりするものではなく、自分の生活や気持ちを豊かにしてくれるものだと思います。そして、みんなの中でもそうであってほしい。

これから推し活をする上で、おそろしく嫌なことをいわれることもあると思います。それは普通に生活していても同じです。けれど、そんな人たちも大好きなものや人を見つけれればいいのにも思います。だって推しがいる人生は、ものすごく楽しいからっ！